

# 令和4年度 清水中学校区小・中連携研修会



令和4年6月13日(月) 14:40~16:40

場所:鹿児島市立清水中学校

## 令和4年度 清水中学校区小・中連携研修会(清水中会場)実施要項

### 1 趣旨

地域における小学校と中学校が9年間で子どもを育てるという視点に立って、相互に連携を図った教育課程編成や学習指導、生徒指導等の在り方についての実践的な研修を行い、児童生徒の「育ち」と「学び」の適時性と連続性を重視した教育活動を展開するとともに、小・中学校相互の指導方法・内容等について視野を広げ、教師の指導力の向上を図る。

### 2 日時

令和4年6月13日(月) 14:40 ~ 16:40

### 3 場所

清水中学校(各教室)

### 4 対象者

大龍小学校, 清水小学校, 清水中学校, 玉龍中学校の教職員

### 5 日程

※ 運営は当番校である清水中学校職員が行う。

※ 他校は、各分科会での司会, 記録, 進行へのご協力をお願いします。

時間	研修内容
14:30~	受付は各自で記名と手指消毒を行い、直接、教室へ移動してください。 ※ 資料は各自で印刷して、持参してください。
14:40~15:30	授業参観(各教室) ※ 各教室、各学校から1名ずつの参観をお願いします。 ※ 参観者は感想記入用紙で、授業者へフィードバックをお願いします。
15:30~15:45	移動・準備・分科会受付(各分科会教室)
15:45~16:35	分科会 (1) 開会のことば (2) 司会, 記録, 進行, 指導助言者の紹介 (3) 各校職員の紹介(名簿にて) (4) 各学校の現状と課題 (5) 情報交換並びに話合いの柱に沿っての協議 (6) 指導・助言(10分) (7) 閉会のことば
16:35~16:40	校内放送による全体会(場所:各分科会教室) 閉会のあいさつ(清水中学校 教頭 阿部康夫)

6 参観授業について(場所は15か所に分かります)

1年1組 理科      1年2組 英語      1年3組 国語  
 2年1組 数学      2年2組 社会      2年3組 英語  
 3年1組 数学(少人数×2組)      3年2組 社会      3年3組 国語      3年4組 理科  
 いちょう(情緒) 数学      どんぐり1組(知的1年) 数学/生活      どんぐり2組(知的2・3年) 国語

6 分科会について

(1) 割り当て

分科会	進行	司会	記録	指導助言者	会場
生徒指導部会	(清水中) 教諭	(清水小) 教諭	(大龍小) 教諭	清水小校長	被服室 (本館1階)
学習指導部会	(清水中) 教諭	(大龍小) 教諭	(玉龍中) 教諭	玉龍中教頭	多目的室 (本館2階)
特別支援教育部会	(清水中) 教諭	(清水小) 教諭	(大龍小) 教諭	大龍小校長	会議室 (本館3階)
保健・給食指導部会	(清水中) 教諭	(玉龍中) 教諭	(清水小) 教諭	清水中校長	図書室 (本館3階) 保健室 (養護教諭)

(2) 研修内容

分科会	研修内容(例)
生徒指導部会	ア 生徒指導上の現状と課題 イ ネットトラブルの事例と対処 ウ 不登校(不登校傾向)の児童生徒の保護者との連携 エ 各校における風紀面のルール等に関する取組(中1ギャップ防止策)
学習指導部会	ア 学習指導の現状と課題 イ 教育の情報化の取組 ウ キャリア教育 エ 小・中の共通実践事項の確認
特別支援教育部会	ア 特別支援学級の現状と取組 イ 通常学級における特別支援を要する児童生徒への指導の在り方
保健・給食指導部会	ア 基本的生活習慣の共通実践事項 イ 感染症対策への取組状況 ウ 給食指導における中1ギャップ防止策

7 当日の協議資料について

- (1) 清水中学校から各校へ作成依頼(5月27日までに)
- (2) 各学校で作成し、清水中へ返信(6月3日までに)
- (3) 清水中で集約、協議資料作成後、PDFデータにして、各学校へ送付(6月8日までに)
- (4) 各学校で職員全員にPDFデータを送信し、各自で印刷して、当日持参する。

(R4.6.13 於:清水中学校)

**【学習指導】**

<p><b>1. 家庭学習の現状について</b></p> <p>清水小・・・宿題として、毎日漢字・日記・各教科のプリントに取り組ませている。学習時間の目安として、学年×10分+20分として指導している。現中1は、自分たちで学習に取り組める児童が多かった。現6年生は勉強の仕方が身につけていない児童が多い。</p> <p>大龍小・・・宿題として、日記(週に1回提出)・漢字・宅習・プリントに取り組ませている。現中1は取組に対して個人差があった。現6年生は、学習が定着していない児童が多い。</p> <p>玉龍中・・・中1では、飛龍という宅習に取り組ませている。内容としては、毎日見開き A3 ノート1ページ(ページを4分割して内容指定)を60分以内で取り組むよう指導している。学習時間の目安として学年+1時間とし、定期的の実態調査をして保護者に伝えている。学年が上がるにつれて、自分で考える学習に移行できるよう指導している。</p> <p>清水中・・・中3での進路選択も踏まえ、中1ではまず家庭学習を定着させることを目的として、漢字・英宅・宅習に取り組ませている。取組には個人差があるが、その都度話をして取り組ませている最中。小学校～中学校～高校～大学というキャリアを考えると、自分で考え学習していく力が求められるので、少しずつ宿題を減らし自ら学ぶ意欲へつなげられると良い。</p>
<p><b>2. ICTの活用について</b></p> <p>大龍小・・・ベネッセのミライシード導入(全教科対応)。現在は無料で利用できているが、今後有料になる。その場合どうなるのかは不明。</p> <p>○まなびポケットの導入が6月予定。授業中に教員が個別指導をしている一方で、他の生徒にはこちらに取り組ませるなどの利用も効果的である。</p> <p>○各学校、ロイロノートや生徒用デジタル教科書が利用できる状況にあるが、利用の仕方は各教員に任されている。また、クラスで全員が一斉に利用するとネット回線が混み合い上手くつながらないため、なかなか利用できない状況もある。</p>
<p><b>3. 学力向上のために良いと思う取組について</b></p> <p>○授業中でも、分からないところはペアやグループで教え合いをさせる。</p> <p>○「教科書を全て」教えるではなく「教科書を使って」教える。</p> <p>○そもそも、学力向上とは・・・?例えば～調査に向けてやるのが学力向上に結び付くのか疑問。子ども自身に目標をもたせることが必要では。</p>

**<指導助言>**

- 指導力の高さが求められるが、指導力とは「指導方法・人柄・個性」の3つの力である。
  - 授業改善のポイント
    1. 目標の明確化と学習課題の工夫(教科書の内容を子どもの実態に合わせて授業を考える)
    2. 見通しと振り返りの活動の重視
 

子どもに学び方を教える。(ex.思考ツールの提示や既習事項と結び付けさせる方法など。)

その時間に学習したことを自分でまとめさせる。人に説明することができればOK。
3. 主体的・協働的な学習活動の工夫
 

自主的・・・他者からの指示を待つのではなく、やるべきことを率先して行動すること。

主体的・・・自らの意志や判断、自らの責任で行動すること。

**<まとめと今後に向けて>**

- ◎子どもたちが将来に対する目標をもち、その達成に向けて何をすべきか考えながら主体的に学習することができるよう、教科の指導方法や家庭学習の方法を考える。
- ◎子どもたちが学んだことを普段の生活や将来に活かせるよう、教師も子ども自身も見通しをもてるようにする。

## 【生徒指導】

### 1. 学習のきまりについて

大龍小・・・学習スタンダードを踏まえ、学校全体で共通した授業を実践できるようにしている。

清水中・・・学習のきまり10ヶ条を定めている。

玉龍中・・・学習のきまりを各教室に掲示している。

### 2. バス指導について

玉龍中・・・PTA 指導部保護者へ協力を依頼し、乗車モニターを実施している。

### 3. 携帯の持ち込みについて

○保護者からの要望がある場合もあるが、玉龍中では入学前の学校説明会で保護者に説明している。

### 4. 不登校について

○子ども同士の間人間関係が不登校の原因になることもある。

○家庭環境の乱れは学校だけでは改善することが難しい。児童相談所等関係機関との連携をすすめていく。

○保護者の悩みや学校への様々な対応を求めることが増えており、学校の保護者への対応の難しさを感じる。

○児童生徒の幼児性が強くなっており、親から離れられない。親離れ・子離れが不十分である。

## <指導助言>

○各学校で生徒や保護者と向き合いながら日々取り組んでいる現状を知ることができた。各学校での取組を今後の指導にさらに活かしてほしい。

## <まとめと今後に向けて>

◎今回情報交換したことを活かしていく。

◎必要に応じて各校で連携をとりながら行っていく。

## 【特別支援教育】

### 1 各学校の現状と課題

清水小・・・8名の定員いっぱい、安全管理が難しい。支援員1名では足りない。

大龍小・・・複数学年での授業の進め方。支援員1名では足りない。

玉龍中・・・支援学級ではないが、支援を必要とする生徒がいる。小学校からの情報が少ない。

切れ目のない支援をしたいが、移行シートがなかなか集まらない。

清水中・・・生徒の実態と保護者が捉えている姿に差がある。保護者との共通理解や連携が難しい。

### 2 授業のUD化について

・誰にとっても学びやすい環境づくり。学校で共通理解を。

例 ・めあて:青 まとめ:赤 のチョークで囲む。

・黒板周りをすっきりする。

・赤いチョークは文字ではできるだけ使わない。(アンダーラインでの使用)など

### 3 小学校から中学校,中学校から高等学校へのスムーズな引継ぎについて

○ 移行支援シートや夢すこやかファイル, 個別の指導計画, 教育支援計画の活用について  
課題

・中学校より: 小学校からの情報が少ない。支援学級に過去入級していた児童や通常学級に在籍していても支援を必要としていた児童の情報が欲しい。

夢すこやかファイルは, 保護者保管のため, 情報が把握しにくい。

・個別の指導計画, 教育支援計画の活用が難しい。

対策

・移行支援シート, 個別の指導計画, 教育支援計画を保護者とともに作り, 確実な引継ぎを行う。

・特別支援学級担任以外, 全体で共有するために, PCの中で終わらせず, ファイル(紙媒体)にする。

背表紙は児童生徒のイニシャルを付けて職員室で保管する。

### 4 交流会としてやりたいこと

・学校行事の見学(体育大会など)

・7月あたりに中学校見学会(児童・保護者)

\* 昨年までは, 2学期後半に一度中学校の授業を参観し教育相談を行い, 春休みに面談を行っていた。今年度は, 就学を悩んでいる児童もいるため, 1学期中に授業参観を行う予定。

#### <指導助言>

各学校で職員同士が情報を共有したり, 支援方法等を共通理解したりした上で特別支援教育を実践していくことが重要である。また今回, 小学校から中学校へ, 中学校から高校へのスムーズな特別支援の引継ぎについて確認することができたので, それを実践していくことが大切である。

#### <まとめと今後に向けて>

・移行支援シート, 個別の指導計画, 教育支援計画を保護者とともに作り, 確実な引継ぎを行う。

・個別の指導計画, 教育支援計画等は, PCの中で終わらせず, ファイル(紙媒体)にする。背表紙は児童生徒のイニシャルを付けて職員室で保管するなど工夫し, 全体で共有できるようにする。

・学校行事の見学(体育大会など)や7月あたりに中学校見学会(児童・保護者)などを検討する。

## 【保健・給食指導】

### 1. 感染対策について

清水小・・・屋内での集会は実施していない。

給食運搬ルート、混雑回避ルートはある。

大龍小・・・清水小と同じ。全校で校庭に向かう時は混雑もある。

清水中・・・学年間交流はさせていない。

動線確保については、県や国の対策に伴ってゆるんできている。

玉龍中・・・中・高で集会を実施している。

### 2. 運動会・体育大会について

清水小・・・R2 は午前実施。R3 は低、中、高が2時間。保護者は1家庭2人ずつ。

大龍小・・・R3 は低・中・高で実施。1家庭2人ずつ。

清水中・・・R2 午前、R3 各学年2時間ずつ実施。当該学年の保護者のみ参加。前日プレと合わせて実施する予定。

玉龍中・・・通常に近づけるようにできないか検討中。入場行進はしない。高3の保護者のみ参加。

### 3. 残食について

清水小・・・○自分で量を調節するようにしている。

○片付けの時に「頑張ったね」と声掛けをしている。

○食べ物の価値を語りかけて、食べたいと思わせている。

○栄養教諭による指導や、保護者説明会での呼びかけをしている。

大龍小・・・○できるだけ食べさせるようにしている。好き嫌いに対して指導はするが、難しい面もある。

清水中・・・○学校全体で取り組んできた残食ゼロであったが、それが苦痛に感じられてここ数年はゆるめている。現在は残食が増えている。

○食育として大きくとらえ、その日その日の残食量だけに目を向けるのではなく、継続的な声掛けが大切だと感じている。

## <指導助言>

### 【残食について】

○手作り弁当による感謝の気持ちを持たせる取り組みもある。どのような子に育てるかという視点が大切ではないか。

### 【コロナ対策について】

○基本的な対策をしっかり守っていくことが大切である。

○熱中症への配慮もしつつ、マスクの着脱の声掛けが、どの職員でも言える組織づくりが必要である。

### 【危険個所について】

○大阪ブロック塀事故の教訓をいかし、周辺の安全点検が大切である。

○例年通りは通用しない。工夫と想像をめぐらせ、一つ一つが安全なのか考えていくべきである。